

六郷の城小野寺の一族栗田弾正五百余騎楯小
えを攻落す長山長八郎戸沢彦九郎尚造酒元
々大手田口平三郎梵山寺より造酒元六郷の東北
高尾より彦九郎八針摺の土丸口久盛云六大手
の南駒ヶ山小野寺方小又十嵐長作松村源藏
林茂助沼沢日向高野左門八富並金之助清水
主水庵牛平左門武勇を劬五月二十七日田口平三
郎三百余騎梵山寺より攻登る大手八彦九郎尚
横山北嶽より調合す以郎彦九郎

武克今日を限の振れ道いづくの云我を待へ

は前下田河十郎子下田八郎兵衛初年より豊信
の急難を救ひ兵狼を通し長濱峠迄おさる希代の
志とて家盛云より栗毛の馬を借らじし家人倍理
河内長谷川太郎兵衛小拾貴文の地不慮状を伝て
むふ叔久盛云々本堂六郷西城を所攻取をさる
之掃代の所振舞として所重代不戒の所力と謙
むふ家盛云久盛云云作らるる本堂六郷初年
味方軍患あり故旧願ふれを被れ武人の強とるべ
しこれ所相候より旧願相違ふるは是れ不候と近
頃迄は戸沢の家を慕ひやりあり應永三十年家